

よく見ると、焼却処理した灰の中にあき缶が。分別されていれば、資源ごみとして再利用されていたはず。



焼却処理後にはごみ1トにつき約10分の1が灰として残ります。その灰は薬剤で固化処理を行い、クリーンセンター山東事業所で埋立処理します。

ごみは850～900℃で焼却処理。その様子は中央制御室でモニターしながら管理しています。



## チャレンジ！ごみの減量化

### 家庭で取り組めることから

ごみ減量の対策は、いろいろな行われていますが、その中でも自分たちの一番身近である家庭でできることをもう一度見直してみよう。

皆さんから資源ごみとして出してもらった白色トレイやペットボトルの中には、飲み残しや食べ残しが入ったまま回収ボックスに入れているものがあります。汚れていてそのままでは資源にならないため、収集した後で大量の資源ごみの中から再度抜き出さねばならず、多くの人手と手間が必要になります。

これらは、普段のちよつとした心がけで減らすことができます。

「ごみを減らさなければ」「リサイクル（再利用）できるものはたくさんあるはず」と多くの人が考えて日常生活を送っているはず。しかし、現実にはなかなかごみの量は減り



生ごみは処理機でたい肥にして再利用を。

ません。

これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄という社会システムに別れを告げ、大切な資源を上手に使い、環境への負担を減らす「循環型社会」に向けてわたしたちにできることから始めましょう。

### 「ご存知ですか？5つの「R」

ごみを減らすポイント「5R」を実行することがごみの減量につながり、これからの循環型社会に向けてわたしたちができる第一歩となります。

**5R** **リデュース (Reduce)**  
—ごみになるものを減らす

・詰め替え商品を利用しましょう。  
・使い捨て商品を減らしましょう。

**5R** **リフュース (Refuse)**  
—不要なものは受け取らない

・買い物には買わない物袋を持参しましょう。  
・過剰包装は断りましょう。

**5R** **リペア (Repair)**  
—修理して長く使う。

・壊れても簡単に捨てずに、修理して使いましょ。

**5R** **リユース (Reuse)**  
—何度も繰り返し使う

・不用品はリサイクルショップやフリーマーケットを活用し、必要な人に譲りましょう。

**5R** **リサイクル (Recycle)**  
—再生利用する。

・生ごみは、生ごみ処理機などを利用し、たい肥として利用しましょう。

・市の収集や集団回収を活用して、資源の有効利用に努めましょう。日常生活でごみになるものを買わない、そしてごみを減らす工夫と努力をし、物をできるだけ捨てない生活習慣を身につけましょう。

### 始めよう！ごみの減量 1人一日百㌔

あなたも1日百㌔のごみ減量にチャレンジしてみてください。

一人ひとりの小さな努力が大きな成果につながります。まずは、一人1日百㌔減らす工夫をしましょう。一人1日百㌔減らすことで、年間約37キの削減ができ、市全体では、約1千3百トの減量につながります。

使い捨て商品を使わないようにしたり、リサイクルできるものは資源ごみとして出すことを徹底すると、百㌔のごみを減らすことも難しいことはありません。



例えば、割りばし、使い捨てコップ、紙皿6人分で100㌔となります。